村上市立村上小学校

村小だより

平成30年12月13日発行

努力を称え　次につなげたい

校長　鈴木　正美

2学期(80日間)も来週終業式を迎えます。やさしい残暑だった9月、「涼」を感じ、過ごしやすかった10月、例年に比べ「寒」の訪れが遅かった11月、そして、「暖」が不可欠となった12月と、季節の変化を肌で感じた2学期でした。

この間、村小っ子たちは、日々の授業や活動はもちろんのこと、運動会や文化祭等の学校行事や陸上大会等に向けた練習や準備に本気になって取り組み、大きな成果を発表してくれました。併せて、作文や感想文、科学研究、習字等の数々のコンクール等に、自ら進んでチャレンジし、優秀な成績を収めた子どもたちも例年以上に多かったと思っています。素晴らしいことです。一人で黙々とがんばることやみんなと力を合わせてがんばること、共によくがんばった2学期でした。1学期同様、来週の終業式で「全校としての2学期の成績」を子どもたちに示し、3学期でのがんばりにつなげてほしいと思っているところです。

また、今年に限っては言えば、博報賞受賞が光栄かつこの上ない名誉な出来事でした。先般、それに伴う博報財団の受賞校訪問がありましたので、その様子をお伝えいたします。

12月3日、3年生の「ミニ村上大祭」に合わた訪問取材でした。財団担当者、國學院大學N教授(審査員)、記者、カメラマン等、6名が来校し、約2時間の子どもたちの活動をご覧になりました。皆さんは、子どもたちの自信たっぷりで堂々とした発表、本気で楽しんでいる様子等に触れ、「魅入ってしまった。」「村上に来て、実際を見ることができてよかった。」と、口々におっしゃってくださいました。また、祭り本番さながらの出立ちでの保護者、地域の皆さんや祖父母の方々等、参観者が多いことに驚かれていました。

活動終了後には、参会者の生の声を求め、子どもたち、保護者、祭り指導者等へのインタビューを行っていました。その際、祭り指導者である堀田さんが「お祭りを楽しみ、大事にしてほしいと思って、16年かかわっている。少しでも役に立っていれば幸いだ。」(概要)と、嬉しそうに語っておられたのが印象的でした。その後、校長室で取材を受けた私も、子どもの成長を踏まえた「伝統を生かし、未来を創る」取組として位置付く「村上の鮭」(4年)、「人形さま巡りでのボランティア活動」(5年)、「村上の未来図発表会」(6年)等々について、少々熱く語らせて(説明させて)いただきました。

(※この訪問取材の内容は、3月20日ころ、新潟日報に掲載予定だそうです。)

さて、どのご家庭でも「年越しする」「新年を迎える」ための非日常的な(普段と違う)行いやその準備作業等の時間があると思います。既に家庭(地域)で取り組まれているとは存じますが、是非、子どもたちの学年に応じた役割(手伝い)を与え、取り組ませ、認めてやり、自分の成長を自覚させ、「家族(地域)の大事な一員」であることを実感させてほしいと願っています。

間もなく、冬休みになりますが、楽しく安全な生活ができるように、家庭、地域での見守りや教え、よろしくお願いいたします。

今年一年のご理解とご支援に心から感謝いたします。よいお年をお迎えください。